

議事	テーマ	発言要旨	発言者
「新秋田元気創造プラン」戦略4の取組について	「目指す姿1 新たな人の流れの創出」について	働き方の変化やデジタル化等について行けない高齢者等にも効果的な施策を講じるべきである。	能登祐子委員
		ワーケーションは非常にライバルが多く、ちょっとしたことをやれば勝てる市場ではなくなっている。	鈴木了委員
		ちょっとやそっとのことでは勝ち目のない市場にかけるお金があるのであれば、思い切って違う方向に向かうという判断も必要ではないか。	鈴木了委員
		子育てをしやすい社会をつくるのが、定着・回帰にもつながるのではないか。	能登祐子委員
		ワーケーションは、圧倒的にバケーションの部分が強くなければ、そもそも人は来ないため、北海道、沖縄、海外等にも勝てるほどにバケーションで強くならなければ難しいのではないか。	鈴木了委員
		県外の人には、秋田県は教育がいいというイメージがあるため、勝ち目がありそうな教育留学に力を入れるべきではないか。	鈴木了委員
		秋田県は保育の環境が豊かであるため、バケーションしながら保育園に体験入園できるというのいいのではないか。	鈴木了委員
		移住・定住するためには生活していかなければいけないので、仕事を併せて考える必要があるのではないか。	能登祐子委員
		出産・育児は移住を考えるきっかけになるため、都会での子育てに不安を抱えている方に対して、秋田県の子育てのしやすさや教育のよさ等を伝えればいいのではないか。	鈴木了委員
		他県等との競争に勝つためには、他県等にないものや秋田県の強みを伸ばしていくべきではないか。	鈴木了委員
県外から秋田県に帰ってきた際、山や海など、自然を求めるときにすぐ身近にあることは素晴らしいことだと強く思ったので、人を呼び込むポイントになるのではないか。	原田美菜子委員		

議事	テーマ	発言要旨	発言者
「新秋田元気創造プラン」戦略4の取組について	「目指す姿1 新たな人の流れの創出」について	転入者から秋田県のよさやいいイメージを聞き取ることが重要ではないか。	原田美菜子委員
		秋田県のよさを地元の人に改めて知ってもらい、それを自慢や誇りにすることが、秋田県で生きていくことの楽しさとなり、定着につながるのではないか。	原田美菜子委員
		ワーケーションは、県外の人だけでなく、県内の人も対象にすることで、秋田県のよさを再認識する機会が増えるのではないか。	原田美菜子委員
		移住促進の取組は大変な上に効果がわかりにくい、費用が効果に見合っているのか考える必要があるのではないか。	鈴木了委員
	「目指す姿2 結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現」について	授乳や看護の休暇、早番・遅番の免除など、育児中の親が柔軟に働ける環境をつくる必要があるのではないか。	加藤未希委員
		女性のみならず、男性が子育てしやすい職場環境づくりが必要ではないか。	加藤未希委員 鈴木了委員
		多胎児、発達障害、アレルギーなど、子育ての悩みには多くのパターンがあるため、できるだけ多くの悩みに対応できるよう支援するべきではないか。	加藤未希委員
		子育て支援のイベントに行きたくても行けない親もたくさんいるので、参加しやすいイベントのあり方を検討するべきではないか。	加藤未希委員
		子育ての悩みは、同じ立場の人と共感することで救われるので、そうした観点でイベントの開催やサークルの支援をするべきではないか。	加藤未希委員
		特定の悩みを支援する子育てサークルは、必要とする人はいるが人数が少なく、運営が大変であるため、こうしたサークルを支援することが多様性の面からも重要なのではないか。	加藤未希委員
	「目指す姿3 女性・若者が活躍できる社会の実現」について	女性の活躍にとって必要な女性自身の意識改革が進んでいないが、県の取組を理解してもらうことが重要ではないか。	能登祐子委員
		女性が活躍するためには、子育てのしやすい環境をつくる必要があるのではないか。	加藤未希委員

議事	テーマ	発言要旨	発言者
「新秋田元気創造プラン」戦略4の取組について	「目指す姿3 女性・若者が活躍できる社会の実現」について	秋田県には、性別による役割意識が強く残っているので、解消しなければならないのではないかと。	鈴木了委員
		性別に関する意識改革のためには、ワークショップなどによる交流の時間や、みんなで学ぶ機会をつくるべきではないかと。	能登祐子委員
	「目指す姿4 変革する時代に対応した地域社会の構築」について	人が住むことで地域が豊かになるので、人と地域のマッチングに繋がる取組をするべきではないかと。	能登祐子委員
		多様性への理解を進めるためには、子どもへの教育が重要なのではないかと。	原田美菜子委員
		性別、年齢、障害など、各分野ごとに思いやりを持たなければならないポイントがあると思うので、専門家の意見をもとに、県民が気付かないポイントを知る機会をつくるべきではないかと。	原田美菜子委員
		多様性の教育の一環として、子どもたちへ副読本を配布すればいいのではないかと。	能登祐子委員
		多様性を理解してもらうのは、本当に時間がかかることであるので、やめずに継続していくことが重要ではないかと。	能登祐子委員
		人口減少下においては、人種や障害など、さまざまな方と触れ合う機会が減ってしまうので、そうした機会を確保するべきではないかと。	鈴木了委員
	「目指す姿5 脱炭素の実現を目指す地域社会の形成」について	環境活動については、高校生の知識が豊富であるが、やはり教育は重要であると考えられる。	能登祐子委員
		身近なところで、できることをやっていくことが重要ではないかと。	能登祐子委員
		ごみ拾いしながらのランニングのように、環境活動にプラスアルファで興味がわくようなイベント等を組み合わせることで、入口が広がるのではないかと。	加藤未希委員
		建築士の意識向上や知識習得を支援することで、建築業界における脱炭素化の取組が進むのではないかと。	鈴木了委員

議事	テーマ	発言要旨	発言者
<p>「新秋田元気創造プラン」戦略4の取組について</p>	<p>「目指す姿5 脱炭素の実現を目指す地域社会の形成」について</p>	<p>脱炭素化への寄与度を考えれば、産業界が先に取り組むべきであって、個人レベルの取組を推進するためには、産業界の取組状況を示す必要があるのではないか。</p>	<p>鈴木了委員</p>
	<p>「目指す姿6 行政サービスの向上」について</p>	<p>G I Sの導入等、W e b上で土地利用の詳細情報を取得できるようにしてほしい。</p>	<p>原田美菜子委員</p>
		<p>電子申請はだいぶ普及しているが、申請以外の事務手続もW e b上からできるようなシステムを充実していけばいいのではないか。</p>	<p>原田美菜子委員</p>
		<p>W e b上のサービスが充実すれば、県内の事業者のみならず、秋田県で事業を展開しようとしている県外事業者にとっても有益なのではないか。</p>	<p>原田美菜子委員</p>
		<p>高齢者にも簡単に、わかりやすく、使いやすいW e bサイトとしてほしい。</p>	<p>能登祐子委員</p>
		<p>誰もが衛生的に生活できることは大切なことであるため、生活排水処理サービスの改善を進めてほしい。</p>	<p>能登祐子委員</p>